

## 加盟社 各位

### 喜多恒雄を新聞業界から永久追放せよ

僕たち、日経新聞の若手記者が朝起きるのはどんなに遅くとも午前7時です。前日、帰宅するのは午前様になるのが普通で、ひどい時は午前2時過ぎです。睡眠時間が2、3時間という日もあります。

朝起きてまずすることは取っている新聞各紙に目を通すことです。まず、他紙の1面の見出しをみます。大きなニュースを抜かれていないか、確認するためです。そして、わが日経新聞を手に取り、1面から順次ページをめくります。

7月11日、水曜日もそうでした。他紙には抜かれ記事はなく、すぐに、日経新聞朝刊を手に取り、頁をめくっていくと、34ページ、第2社会面に「本社、文藝春秋を提訴へ、事実無根の記事で名誉毀損」という囲み記事が目にとまりました。

記事を読んでもみると、どうやら、その日発売の週刊文春（7月19日号）が喜多恒雄社長と吉田ありさ経済部デスクが親密な関係にあると報じているらしく、それが事実無根で、近く文藝春秋などを提訴すると書かれてあるのです。事実無根の理由としては「喜多社長が取材に応じ、吉田ありさデスクが社長の自宅マンションを訪問した事実はなく、その日は妻と一緒にいた」という趣旨が記述されていました。

僕たちは「一体これはなんじゃい」と思いました。だって、そうでしょう。新聞紙面は読者に必要な情報を提供するためにあります。読者はうちの喜多社長が自宅マンションに一緒に居ようが居まいが、そんなことは誰も知りたくありません。いや、通常の神経ならひた隠しにするもので、紙面に載せるなど考えられません。それが堂々と、目立つ記事で載っているんです。

そこで、はたと気づきました。週刊文春の広告が載っているはずなのに、それが眼に留まらなかったからです。ページを元に戻してみると、週刊新潮の広告は載っているのに、文春の広告はありませんでした。すぐに、朝日新聞を取ってみると、文春の広告が載っており、「日経新聞社長と美人デスクのただならぬ関係」という見出しが飛び込んできました。

僕たちは慌ててコンビニに行き、週刊文春を買いました。そして、愕然としました。グラビアページにマンションから出てくる吉田ありさデスクの写真が載っているのです。目に線を入れていますが、写真が本人だと日経記者なら誰でもわかります。

一歩譲って、もし事実無根だと主張したいなら、吉田デスクを事情聴取して週刊文春に写真が載っている女性は「本人ではあるが、防ねた先は別人だ」とか指摘する記事を載せるべきでしょう。それだって、なれ合いの内部調査じゃカネを取って読者に提供すべき情報ではありません。恥を忍び、日ごろの主張のように、第3者委員会を設け、調査するのが筋でしょう。

僕たちも、日経新聞が腐りきった会社とはわかっていますし、社長の首を切ったところで、どうにもならないことも承知しています。しかし、そうであっても、僕たちは喜多社長と吉田デスクを放逐すべく決起します。皆様のご支援を賜りたく、ここにお願いする次第です。

日経新聞社内『喜多社長と吉田デスクを放逐しよう会』